きらめき Plus
BOOK REVIEW

人も物も街も、心おきなく遊んでごらん。

●東宝特撮映画 ポスター全集Ⅰ・2

朝ヨリコマ　各五八〇円

懐しのゴジラ映画など、東宝の特撮映画のポスターが総覧書になって、それが二十二枚で一番になったうれしくも不思議な本。見てはしゃぐユーモラスな本。キングコング対ゴジラ、モスラ対ゴジラ、怪獣大戦争、「ゴジラ勝つかコング勝つか世紀の大決戦」などふかこうなもしずかに、怪獣絵の総覧の世界が繰りひろげられます。なんともリアル、なんとも楽ちん。はじめ心を改善書にして読ったあとは、表紙と作品リストが残るだけだけれど、それもまた楽しい出帰り結末のあとのようで、一緒です。

●世界文学にみる 架空地名大事典

アルベルト・マングェル&ジアンニ・グアダルーピ著
高橋康也訳
晶文社　三九〇〇円

普通の地図では見つからない、「どこにもない場所」ばかりを集めた地名事典。ガリバーが行ったりリリパットに寄ったりアトラスの不思議の国、ムーミン谷、トマス・ムーア、ユートピアの島まで、世界文学の作家が思い描いたありとあらゆる空想の地を紹介。そこに住む人、動物、食べ物、習慣、法律などについて、まるで実在するもののように、きわめて正確な説明がされています。幻想の王国を信じきってつくりあげていったいにしえの作家たちのはしゃぐぶりには、感嘆、まりにそれを世界中から拾い集めて、精巧な地図や絵までつけてくれたはしゃぐぶりには、拍手。

●建築紅花青鳥園

写真・増田彰久
詩文・坂本武雄
求龍堂　二五〇〇円

日本の都市の建物の中から、植物や動物の彫刻、シレーブ、スチンク・グラスなどを拾い集めてきた豪華な写真集です。ちょっと見には硬くていかめしい建物ら、よくみるといろんな生命が満ちあふれ、動いているのに驚かされます。ドアのノブには蛇がからみ、天井には蝶蝶が飛び、柱のふもとでは鶴子がきどるに。あの国会議事堂の壁にも鳥たちが遊んでいたなんて、なんだかうれしくなってしまいます。中世の頃、ヨーロッパの教会を建めつくさんばかりに飾ったドラゴンたちの彫刻が、今も日本に息づいていて、今のビルの装飾なさを見て、地を思う。

●ファッション・プレート 全集Ⅳ

石山彰編・解説
文化出版局　三八〇〇円

女性が一番はしゃいでお洒落していた時代といえば、やはりヴィクトリア時代。その頃に描かれたファッション・イラスト集です。今で言うモード誌なわけだけれど、一枚一枚の絵が、額に入れて飾っておきたいほどにキレイ。コルセットで締めあげた体に、「東洋風飾り模様の散歩服」「雪花色モリレ絹の夜会服」「黒とキウの平織で縫ったビロードのドレス」をまとうという豪華な装いの女性たちのポートレートがにっこり微しめます。徹底した自己満足、生活の感覚の装いが好きな方も、心おきなくお洒落してみたいノと思わずにいられなくなるでしょう。

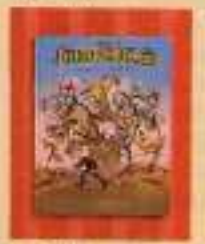
●オルゴールの詩

岩村義人著
音楽之友社　一四〇〇円

はしゃいでいる小箱といえば、ビックリ箱、そしてオルゴール。十九世紀のオルゴールの歴史を美しい写真で紹介してくれる本です。現代のオルゴールは昔のオルゴールの「なれの果て」と言われがいうだけあって、紹介されるものはどれも神秘的のように立派。ドラムでリズムを刻むものや、マンドリンのトレモロのような音まで出せるもの、さらにはオーケストラ・オルゴールと呼ばれる大がかりなものまであって、オルゴールが音楽機の発明以前の音楽を演奏音だったことが分かります。

●仮面舞踏会

キット・ウィリアムズ著
北條敏夫訳
角川書店　一三〇〇円



一度はまってしまったらもう抜けられない、ちょっぴりこわい、ちょっぴりエロチックな話。ページをめくるたびに、次々と出てくる謎を解いていく快感。目ざすのはイギリスのどこかに埋められている宝物です。作者のキット・ウィリアムズが自分で宝石をちりばめてつくり、実際に宝箱を埋めたというのですから、出題する方も解く方も真剣。ことば遊びをしたり、絵の中に隠されたウソを探したり、さまざまなカラクリを解きながらワンダーランドをかしこまで進んでいくと、時のたつのも忘れてしまいそうです。マザーグースや聖書など、イギリスならではの博識の利いた言葉ザケの楽しさがいっぱい。

●『建築紅花青鳥園』のみ一冊でご注文。『仮面舞踏会』のみ一冊でご注文。お名前、郵便番号、住所のご記入をお忘れなく。ご注文の締め切りは昭和五十九年十一月二十日（火）です。
●〒一〇〇-〇　東京都千代田区内幸町一-一-一　日本生命日比谷ビル八階　㈱ジャックスプリュス編集室